

分類研究分科会

代表者：藤倉 恵一（文教大学）

会員数：7名

会 員：伊藤 民雄（実践女子大学） 上條 庸子（女子栄養大学）
小林 美佐（昭和女子大学） 鈴木 学（日本女子大学）
高澤 玲子（獨協大学） 田中 環（文化女子大学）
藤倉 恵一（文教大学）

年会費：なし

例会開催回数：11回（合宿1回含む）

延べ参加者数：75名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/e-kenkyu/bunrui/>

活動

1) 基本テーマ

件名、シソーラス、Indexing 理論等を含んだ“トータル”な意味での図書館分類法とその理論に関する研究という基本テーマとする。

今期は、「分類する」ということはどういうことか、人間の思考や思想に根ざした「分類」の基本についてまず検討し、翻って、現代の図書館分類法が抱える問題や分類実務における困難について再考することをメインテーマとする。

並行して、現在日本図書館協会分類委員会で編纂中の日本十進分類法（NDC）新訂 10版の試案が公表されれば、その検討や批評も予定する。

2) 活動の概要

分類研究分科会は 2 年間で(1) 研究テーマに沿った文献の精読を通じて参加会員の基礎レベルを整える、(2) 主たる研究テーマの研究・検証を行う、(3) 研究成果の発表および総括 の 3つの期間に分けて活動する。

2. 1) 第 1 期 「分類」の基本の再確認

第 1 期の活動として、以下の文献の精読を行った（2008 年 5 月～2009 年 2 月）。

- ・ 「分ける」こと「わかる」こと / 坂本賢三著 講談社, 2006, 226p. (講談社学術文庫)
- ・ 分類の発想：思考のルールをつくる / 中尾佐助著 朝日新聞社, 1990, 331p. (朝日選書)
- ・ 分類学からの出発：プラトンからコンピュータへ / 吉田政幸著 中央公論社, 1993, vi, 200p. (中公新書)

特に前半は、思想の分類や動植物の分類、規格としての分類など、図書館における「分類」という考え方からは大きく離れたこともあり、かつ哲学・宗教観に基づく分類の論述が多かったことから内容の理解に苦労したが、物事を多面的にとらえるということについて、会員の共通理解のための土壌が形成されたと思う。

2. 2) 夏期研究合宿

夏期研究合宿は、第 1 期と第 2 期にそれぞれ関連して、以下の文献の精読を行った。

ア. 図書館分類・主題分析の周辺

「情報の科学と技術」に掲載された最近の分類・主題分析特集の中から、図書館分類だけでなく「分類」「主題」にまつわる以下の文献を検討した。

- ・ 山崎久道 図書館・情報サービスにおける分類的思考の意義 情報の科学と技術 58(2), p.46-51 2008.2
- ・ 馬渡峻輔 生物を分類するとはどういうことか 情報の科学と技術 58(2), p.52-56 2008.2
- ・ 鯨井秀伸 ICONCLASS：イコノグラフィック分類システム 情報の科学と技術 58(2), p.57-63 2008.2
- ・ 福嶋聡 「分類」と「進化」 情報の科学と技術 58(2), p.71-77 2008.2
- ・ 緑川信之 フォークソノミーの新奇性はどこにあるのか 情報の科学と技術 57(5), p.238-243 2007.5
- ・ 岸田和明 インターネット時代における統制語彙の意義と役割 情報の科学と技術 57(2), p.62-67 2007.2
- ・ 嶋田真智恵 国立国会図書館件名標目表(NDLSh)の改訂作業と今後について 情報の科学と技術 57(2), p.73-78 2007.2
- ・ 棚橋佳子, 宮入暢子 統制語索引と自然語検索を補完する Citation Semantic の効用 情報の科学と技術 57(2), p.79-83 2007.2
- ・ 石田栄美 テキスト自動分類の概要 情報の科学と技術 56(10), p.469-474 2006.1
- ・ 横井俊夫 セマンティック Web：コンピュータが理解できるメタデータ 情報の科学と技術 54(12), p.640-646 2004.12

イ. 図書館分類・知識組織の根幹

目録・分類に関する現況をまとめた最近のテキストの中でよくまとまっているものを採りあげた。また、著者の一人（分科会 OB）を交えて、分類部分について踏み込んで討議した。

- ・ 資料組織概説 / 田窪直規 [ほか] 共著 -- 三訂 樹村房, 2007, xvi, 199p. (新・図書館学シリーズ)

2. 3) 第2期 図書館実務における「分類」の問題点

第2期の活動として、「図書館雑誌」2008年10月号より公開が開始された「日本十進分類法新訂10版試案の概要」について、新訂9版の試案やそれに対する批評、批評を受けて実際に刊行された9版と10版試案の差異を検討することと、可能な範囲でそれを批評する研究を開始した（2009年2月～）。

なお、分類委員会では誌面に限りのある「図書館雑誌」への掲載と並行して、分類委員会ホームページにおいてより詳細な試案(PDF版)を公開している¹⁾。分科会での検討は、このPDF版を検討の対象としている。

資料

1) 刊行物

特になし。

計画していた分類研究分科会設立50周年記念シンポジウムの記録について、調整のうえ次年度早期の刊行を目指す。

2) 事業

ア. TP&D フォーラム 2008 (第 18 回整理技術・情報管理等研究集会) の共催

1991 年に日本図書館研究会整理技術研究グループ (現・情報組織化研究グループ) により始められた TP&D フォーラムは、第 2 回から分類研究分科会が共催者となり運営に参画してきた。2008 年度は大阪で開催され、分科会からは藤倉・鈴木・高澤の 3 名が出席した。

フォーラムの参加者は教員、図書館員、データベース業者などさまざまであり、これに分科会が参加・関与することの利点は(1) 主題組織分野における最新の研究動向の把握、(2) 分野を同じくする教員や研究者との交流、(3) この分野の研究基盤継承への貢献 であるといえる。

なお、2009 年度は 8 月 29・30 日に東京にて開催される予定である。

イ. 日本図書館協会分類委員会への参画

2007 年度より、分類研究分科会を代表して藤倉が NDC の編纂に携わっている。これによって、分類研究分科会での研究成果を多少なりとも NDC の編纂に役立てることができるとし、逆に最新の動向を分科会に持ち帰ることができる。

なお、第 2 期の活動の中心となる NDC 試案に対する批評については、編纂者としての立場とは直接無関係な活動として実施・公表する予定である。

(文責・藤倉恵一)

注：

1) 日本図書館協会分類委員会ホームページ <http://www.jla.or.jp/bunrui/index.html>